

# 新潟シティガイド

## 今代司と入船地蔵

今代司酒造株式会社

蔵元 九代目



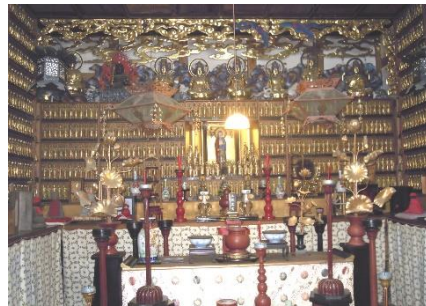
山本 平吉 様

山本家の初代は、寛保二年（一七四二）生まれ。但馬屋十佐エ門といい、明和年間（一七六四〜一七七二）に本家但馬屋からのれん分けされ、旅籠を営んでいたこともあると祖父から聞いたことがあります。代々平吉を襲名し、私が九代目となります。東堀通り十番町を本拠地としてたばこ、塩などの商いをしてきたこともあったそうです。明治の頃には酒の仲卸をしながら若干の酒製造もしておりましたが、曾祖父六代目の時に本格的に造り酒屋に進出するべく、明治三十年代に現在地、沼垂の

「鏡が岡」に酒蔵を建て、酒造業を始めました。現在地は旧栗ノ木川沿いにあり、沼垂小学校がある場所にあった新発田藩の米蔵の役人らの詰め所があった場所のようです。地盤も良く、舟運も良かったのでこの地に酒蔵を建てたと聞いております。当地には其の頃隣接して板垣さん、大久保さんの酒蔵が既にあり、当蔵を含め三軒の酒蔵が並んでいました。ところで、数年前新潟シティガイドの間島勝利さんから聞きしたことは全くの初耳で驚かされました。下（しも）にある入船地蔵尊は当家に所縁があるものだというのです。間島さんから頂いた印刷物のコピーを見ると地蔵を扱った船員が但馬屋に投宿したとか、はたまた「東堀前十二の思案小路に但馬屋（今代司）がある云々」に至ってはうちの事に間違いはないと思いましたが、そんなことは祖母や両親からも聞いてお

NO. 21号  
 ≪編集発行≫  
 新潟シティガイド  
 ≪発行人≫  
 関 克人

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく



入船地蔵尊

新潟日報事業社から発行されたこの本の「沼垂のお蔵」の項を読むと井戸のことが書いてあり、山本、酒井、大久保、板垣、の四軒の酒屋が、お蔵のあとに出た沼垂小学校入口にあった井戸から水をもらって

りませんでしたので本当に驚きました。そしてその話を聞いて間もなく納戸にある古い本棚の中に「新潟の町・古老百話」という本を見つけた時には二度びっくりでした。沢村洋編のその本は間島さんから頂いたコピーの元本だったのです。



江戸蔵（映画ロケにも使用）

たと記述されていて、記述當時も今代司は管で酒工場へ水を引いて使っていると考えられています。

現在では沼垂小学校から蔵まで水を引いてはいませんが、学校正門横から蔵まで水を引いてきた管は今でも道路に埋設されたままなのではないでしょうか。会社に当時新潟市から頂いた管の埋設の承認の書類が残っています。東堀の家は道路拡張の為すべて取り壊され、昔の面影はなくなってしまうかもしれませんが、今でも思案小路角に叔父が住んでおり山本酒店但馬屋ガレージを営んでいます。そのようなことを含め、酒蔵に興味をお持ちの方はお気軽に当蔵を見学においで下さい。

## ガイド日誌

ノーマライゼーション



羽賀 五郎

五月に視覚障害者団体の有志五名様のみち歩きを担当しました。ガイド申し込み受付票によりますと、コースはNEXT21着発で西大畑のお屋敷町を基本に護国神社、砂山の碑、坂口安吾文学碑を巡るコースでした。

日時は五月十日十三時〜十五時、人数は五名（男二・女三、全盲の方四名弱視の方一名）介護者三名に盲導犬二頭。地域は一名十介護者一名は上越市、他は新潟市内。歩行の安全はお客様が責任を持つので、ゆっくり歩いて案内してもらえば有りがたい。コースは希望であり、基本的にはシティガイドにお任せとの事。途中疲れて早めに切り上げて貰うかも知れない。雨の場合は古町のアーケード街を案内してほしい等丁寧なご要望がありました。さてガイド当日まで六日しかありません。早速ガイ

ド計画の作成に入りましが視覚障害者のまち歩きは勿論対処方法の経験もまったくありませんでした。

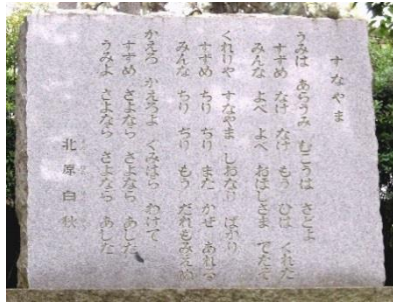
先ずはおお客様のご要望のガイドポイントは最大限に取り込む事として、階段、非舗装道路・急な登り下り坂、路地は極力避けるようにして各ガイドポイントでの要する時間、休憩、移動時間を予測して組立しました。二時間で巡る事は難しいと感じました。

まち歩き当日となり、自己紹介・コース概要の説明を終え二時間の予定ですが時間延長になるやもしれませんが、とお尋ねしたところふたつ返事で快諾を頂きました。

先ずNEXT21のガイドを終え次のガイドポイントのご案内と通過する通りの名称をお知らせしました。(以後同様にお知らせを行う)最初のイタリア軒は外観より説明し、花嫁人形の詩碑は新潟田市生まれで新潟育ちの抒情画の第一人者露谷虹児二十五才の時の発表作品と詩碑そのものもイメージ頂けるような形状を含めてガイドを行う。(以後ガイドポイントで同様に行う)行形亭く旧齋藤家別邸く

安吾風の館く砂丘館と巡り會津八一通りから椿通りを抜けて護国神社、一の鳥居に到着。

この間距離があるのでお客様、介護員、小生を含め同年代でもあり四方山話に終始しました。鳥居前で二回目の休憩を取る。次は坂口安吾文学碑、ここでも碑の形状と旧安田町から運搬時のエピソード等も交えガイド、北原白秋「砂山」の碑では全員で合唱、歌え終わって拍手喝采のハプニングもありました。



「砂山」 歌碑

護国神社、二の鳥居前から参拝し、これより帰途に就く。どつぺり坂は迂回して坂下広場で三回目の休憩を取りながらガイド、あとはNEXT21迄ひたすら歩くことになるがやはり会話をしながら落伍者も無く無事到着しました。

所要時間二時間三十分掛かりましたが参加者皆さんからおかげ様で楽しくまち歩きができましたと労いをいただきました。ガイド承諾後、案内経路計画、安全対策等を纏めた六日間と、まち歩き当日が今もって記憶に残るガイドでした。

白蓮と庄内屋しん



佐藤 英世

ここ数ヶ月の間に二館巡り(豪商の館と古町花街巡り)が三々四回続いた。

NHKの連続ドラマ「花子とアン」に、白蓮が出てくることを知ったのは、文芸春秋の八月号に載った「白蓮事件・柳原白蓮とその半世紀」で宮崎龍介の昭和四十二年六月号に掲載された手記の再掲載があった事だ。

白蓮と云えば父親が柳原前光伯爵で新潟と深い関係があり、萬代橋の橋銘を揮毫した事、古町の美人芸妓の「庄内屋しん」を落籍し東京麻布の本宅へ連れ帰った事だ。



柳原 白蓮

この二館巡りはスタートの小澤邸から、古町花街を歩きながらのガイドなのでタイムング良く「花子とアン」のドラマにつないで、柳原前光伯爵に「庄内屋しん」が萬代橋の橋名の揮毫を頼んだ由来をはずすことが出来た。結果、参加者の皆さんは、まち歩きに違った興味を持つてくれた。



柳原 前光

やはり、NHKの連続ドラマやマスメディアの偉力は絶大なものである。「庄内屋しん」が古町美人芸妓であったことから、前光が見染めて麻布に連れて帰った。そこで若年の白蓮と二年位生活を送っていたこと



庄内屋しん

が年譜から考えられる。残念な事は「庄内屋しん」には子供が出来なかったのので戸籍上に記録が残っていない事だ。一方、幸いな事に地元で白蓮の色紙が見つかり旧齋藤家別邸に展示されたことから、それ等と兼ねて話題が膨らんで、楽しいまち歩きが続けられました。

(写真等 ブログ蔵織より引用)

立ち寄り

白山ミステリー三点



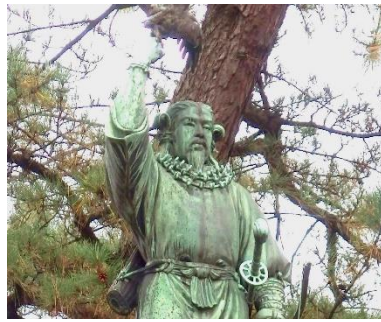
金子 金治

- ① 白山公園の蓮池。ある日のガイドの時のこと。「レンコンの収穫を見たいけど？」そう言われてみれば、ひょうたん池のほうは水抜きをして、底をみせている光景に出くわしたことはあるけれど蓮池のほうは花だけに見惚れて根っこのはうは？もの見方は多様だと改めて思い知った。
- ② 竹内式部の顕彰碑。国内最大といわれるこの石碑。横から見ると僅かに前傾姿勢その理由は、建立当初から



風間 俊一郎

船江稲荷神社



神武天皇像

③ 白山の神武天皇像。昭和二十年八月一日は、ご存じ敗戦の日。私は当時国民学校高等科一年。九月の二期に登校するとまずさせられたのは教科書の墨塗り。それほどに神経質な命令がなされたにも関わらず、最も隠ぺいを余儀なくされたであろう神武天皇像が、どのような経緯で健在でこられたのだろうか。

過去を語る遺産として、貴重な存在です。

流石に管理が行き届き、塵一つない参道である。朱の鳥居がL字形に立ち並ぶ境内を進くと奥に社殿が建っている。その入口には形の良い上品で優雅な姿をした狐が出迎えてくれる。社殿の扉を開けて中に入るとお狐さんの大集合。招き猫ならぬ招き狐さんが大勢で手招きしている。福を招いてもらえそうな、これから何かいいことがありそうな、そして何となく得をした気持ちにさせてくれる。



招き「狐」

下町には神社仏閣が沢山ある。今日は普段あまり立ち寄らない所へ行ってみよう。 「みなとびあ」から出発し、入舟小学校を過ぎた所に北陸ガスのビルがあった所に隣接している小さな神社を見つけた。そこは船江稲荷神社と言います。北陸ガスが管理している神社だった。

担当の下町エリア外ですが、市内でのお推めは県立鳥屋野潟公園です。この公園は、鳥屋野潟を囲み、女池地区・撞木地区・スポーツ公園に分かれ、それぞれ特色があります。

女池地区は私の自宅に近く、桜に代表される鳥屋野潟の景観と、科学博物館や図書館があり、多くの人が訪れます。撞木地区はその対岸にあつて和風庭園を中心に、高低差と野趣あふれる空間を楽しめる新潟市街も眺望することができます。

スポーツ公園は、ビッグスワン・エコスタジアムなどの施設と、カナルの水辺や、広い複数の運動広場などで構成されています。



上村 勇

鳥屋野潟公園

おすすめスポット

今日は新しい発見が出来満足したぶらぶら歩きでした。またこの船江稲荷神社は先々代が、ガスの噴出に感謝をして敷地内に建立したと聞いています。

十月二日会員の皆様の協力を得て、「北前船文化と歴史を訪ねる旅」を無事終える事が出来ました事お礼申し上げます。



小野塚 昭美

研修旅行を終えて

冬期以外、私の早朝散歩は撞木地区とスポーツ公園へ車で交互に行き、春は桜夏は水辺と緑、秋は紅葉と白鳥の飛来など解放された非日常的な空間を一人占めしています。付近には市の天寿園・いくとびあ食花・アイススケート場などオーラルシーズンで楽しめる施設が沢山あります。

是非皆様も訪ねてみて下さい。



鳥屋野潟とビッグスワン

同じ北前船の寄港として数々の共通点がある、新潟と酒田その歴史等の検証も兼ねて今回の研修場所を酒田にさせて頂きました。私ごとですが、酒田には、三回お邪魔していただいて実際今回見学場所としていたところも、二時間ほどで町歩きを経験したので、会員の皆様に町歩きして頂いたも、大丈夫と確信を持っていたのですが、先方のガイドさんとお話しても、二時間の町歩きという事で話がかみ合わず委員長が月橋さんから再度交渉をして頂き、バスで回るという事になりました。酒田のガイドさんは当日団体で何って町案内出来る人数に限られているとの事で、改めて町歩きガイドの事ならあらゆる事に迅速に対応出来る新潟シティガイドの素晴らしさを再認識しました。



日和山灯台と酒田港

もうひとつの目玉としていたのが、相馬楼での酒田舞妓の踊り鑑賞です。○会員の皆様も御存じかと思いますが、新潟の柳都さんのシステムを手本に再現されたのが、相馬楼の酒田舞妓さんです。踊りもよかったです。やっぱり日本三大芸妓古町芸妓さんに軍配ありと密かに思ったのは私だけだったでしょうか？とは言葉、鑑屋さんで説明して下さった女性のガイドさんのお国訛りが入った心がほっこりするようなガイド。本間美術館の館長さんのわかりやすいガイド、今回の担当ガイドの奥山さんの丁寧なガイド。学ぶ事がたくさんありました。そして私は、小さい頃からの憧れのバスガイド？もさせていただき、皆様に毎回トイレタイムをお知らせさせて頂きました。今後とも企画委員、力を合わせ皆様新しい発見・共感を頂けるような企画を提案して頂きたいと思います。今後とも企画委員に叱咤・激励宜しくお願いします。

**新会員の抱負**

新しく入会された四期生の内、各エリア毎お一人に抱負を語って頂きました。

いっぺんこと笑って  
いただこう!!!



古川 修一  
(西大畑担当)

昔、流行っていた、この歌がなぜか好きだった。六十五歳、今は、まち歩きが大好きになっていく。退職後、家に居ずらくなつて、まち歩きガイドをやつてみようかという事に。講習を受けるたびに興味があつて、どんどん増し面白い。反面肝心のガイドは無理と感した。覚えられない。声が出ない。などそんな時に、先輩の皆さま方より「人それぞれのガイドがある」との事や、色々の局面での現実対応を丁寧に対応を頂き救われた。またリーダーにも「大丈夫、出来ませよ」と優しく強く励まされた。いつ時の出会いを大切に喜びとし、私自身いっぺんと遊び、楽しみ笑われるガイド、笑って頂けるガイドを目指したいと思いません。

**入会にあたっての抱負**



皆川 越男  
(白山担当)

四十年余にわたり仕事人間だった自分が、定年後の人生設計について漠然と考へ始めるようになった頃、市報でボランティアガイド養成講座受講生募集という記事が目にとまりました。観光地などで良く耳にするあのガイドかという好奇心から応募し、約一年間の講座を経て、そこで出会った仲間達と今回入会ということになりました。我々シニア世代にとつての生きがいや社会貢献という難しいテーマはさて置き「まずは楽しみなながら」が継続のカギだと思つています。今回選択した白山エリアの奥深さを実感しながら、諸先輩方のご指導を賜り、白山エリア四期生七名と共に、一人前のガイドになるべく励んでゆきたいと思つております。

**古い物を大切に**



荒木 信夫  
(下町担当)

イタリア・シエナは、旧市街地に世界一美しいカンポ広場があり、世界中から観光客が押し寄せている。何故か百五十年前の写真と見比べても、そっくりそのまま、道路も家も全てが、大切に保存されて世界遺産に指定されている所以である。車両台数一世帯一台に制限している。スイス・ハルシュタットもまた然り。ハルシュタット湖の湖岸に広がる小さな街は、歴史的価値の世界遺産そのまま、百五十年間何も変わらず景観を保持している事で同様世界中から観光客が絶えない。同じように新潟市も古い物を大切にしている方々がいる。『私たちの仕事は古いものをそのまま遺すのが仕事です』ときっぱり元禄時代創業の行形亭お女将の言葉。一歩先に出ず、半歩遅れずのおもてなしで、お客様を暖簾の鶴がお辞儀しているようにお迎えしてまいりますと、笑顔で話されました。一枚の絵になる白壁通りは新潟の名所の一つとなった。

二〇二〇オリンピック東京は、既に日本各地で始まっている。古い物を大切にしたい。運動につとめ伝えていきたい。

**編集後記**

今代司酒造(株)蔵元第九代目山本平吉様には暮れのご多忙の所、寄稿賜り感謝申し上げます。ガイド活動の参考とさせて頂きます。新潟・沼垂合併百周年、第四期生入会、役員交代等激動の一年でしたが、良いお年をお迎え下さい。広報担当 勝見 進

会員名	写真	住所	趣味	関心あること	抱負
石田 幾子		西区	旅行	郷土料理	コシヒカリやお酒に限らず四季折々の新潟の魅力をお客様と楽しみたい。
荒木 信夫		中央区	登山 山岳写 クラシック歌曲	見学できる三業 会館改装 古いものを遺す	「一歩進まず、半歩遅れず」のおもてなし。行形屋女将の言葉。
飯島 イツ		中央区	映画鑑賞 ガーデ ニング	まち歩き 古い町並みや 建物	新潟って素敵だな！また来たいな！と思ってもらえるガイドになりたい。
小畑 義則		東区	演劇鑑賞 昔語り 野菜作り	まち歩き 食べる・飲む 平和	昔話を取り入れ新潟の良さを発信したい。沼垂・山の下のガイド。

**会員紹介**